

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・いじめの問題について考えることを通して、生徒同士が互いに尊重し合う態度を育成する。
- ・自分にも相手にも思いやりの心を持ち、自他を尊重しながら人と関わろうとする態度を養う。

実施した内容

- ・いじめ防止集会で考えたことを標語にまとめてコンクールに応募した。(1時間)
- ・参観日に「アサーショントレーニング」を実施し、望ましいコミュニケーションの在り方について考えさせた。(1時間)
- ・SCによる「ストレスマネジメント教室」を実施し、自他を尊重した行動について考えた。(1学年にて1時間)

工夫した点

- ・「いじめ防止集会」において、生徒の発表を取り入れることで、より切実な自分事の問題として「いじめ」について考えられるようにした。
- ・自分にも相手にも優しくなれるコミュニケーションについて、より実践的に学べるよう、体験活動を取り入れた。
- ・SCを活用して、ストレスに対して適切に対処しながら他者と望ましい関係を築けるよう講話を行った。

他教科との
関連

- ・道徳科にて、差別や偏見のない社会の実現のためにできることを考えた。
- ・国語科にて、「子どもの権利」について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・伝統芸能の継承を通して、地域の高齢者への敬意と感謝を育てる。

実施した内容

- ・今別町の伝統芸能である「荒馬」を、町の「荒馬保存会」の方から学ぶ。（8時間）

工夫した点

- ・「荒馬保存会」の方と直接触れ合い、一緒に活動する場面を数多く設定することで、地域の伝統芸能を支えてきた高齢者に対する理解を深められるようにした。

他教科との
関連

- ・道徳科にて、高齢者とともに生きるために大切なことを考えた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・外国人に対する差別や偏見を取り除き、外国人と共に生きていく意識を育てる。
- ・日本にいる外国人の「困りごと」や「感じ方」等について理解を深める。

実施した内容

- ・ALT・CIRを活用し、「モンゴルの伝統的な暮らしと現代的な暮らし」「オーストラリアの多文化社会」「日本に住む外国人の困りごと」というテーマで異文化理解教室を実施した。(3時間)
- ・地域の人権擁護委員を招き、「外国人の人権」というテーマで人権教室を実施した。(1時間)

工夫した点

- ・モンゴル・オーストラリア・アメリカという、それぞれ違う文化を持つ国の生活と自分自身の生活とを比較させることで、外国人の人権について広い視野から考えられるようにした。
- ・「自分が1人で外国に行ったとしたら」「身近に外国の人が来たとしたら」等、様々な状況を設定して考えさせることで、自分事として問題を捉えられるようにした。

他教科との
関連

- ・道徳科にて、他国の人と接するとき大切にすべきことについて考えた。
- ・国語科にて、物語文を通して人種差別について考えた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットの利用に関する問題やトラブルについて学び、自分と相手の感じ方や価値観の違いを意識しながらコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・生徒と保護者が共に学ぶ「ネットモラル教室」を実施して、相手の気持ちを考えたコミュニケーションの在り方について考えさせた。（1時間）

工夫した点

- ・参観日に実施することで、インターネットによる人権侵害について生徒と保護者が共に考え、実践していけるようにした。

他教科との
関連

- ・道徳科にて、SNSなどでのコミュニケーションについて考えた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・保健体育科

目標・人権教育のねらい

- ・心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について正しく理解することによって、自他を大切にしようとする心情や態度を育てる。(1年)
- ・男女の心身の特質を基に互いに相手を理解し、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択ができる能力や態度を育てる。(2年)
- ・家庭や社会において期待される役割や自己の将来の生き方について考えることで、他者と支え合って生きていこうとする態度を育てる。(3年)

実施した内容

- ・大学准教授を講師として招き、「思春期教室」を実施した。(各学年1時間、計3時間)

工夫した点

- ・発達の段階に応じた学習となるよう、学年ごとに内容を精選して講話を行った。

他教科との
関連

- ・保健体育科にて、「異性の尊重と性情報への対処」について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

今別町立今別中学校

人権課題

その他（地球市民）

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 貧困、飢餓、健康、福祉等について考えさせ、持続可能な社会や人権についての理解を深めさせる。
- ・ 学習した人権感覚を、日常の言動に役立てようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ S D G s と関連付けた教科の年間指導計画を作成した。
- ・ 「S D G s 講演会」で「S D G s の 1 7 の到達目標」について学んだ。（1時間）
- ・ 発展途上国に関する講話を聞き、現地の子供たちと同じような体験をした。（1時間）
- ・ 青森空港で校外学習を行い、安全な運輸と快適な接客の背景に人権感覚が生かされていることを学んだ。

工夫した点

- ・ 校長による「第1回S D G s 講演会」と、ユニセフ協会による「第2回S D G s 講演会」を行うことで、段階を踏んでS D G s に対する理解を深め、問題をより自分事として捉えられるようにした。
- ・ 学校で学習した人権感覚が実際の社会生活の中で生かされていることを実感できるように、校外学習の振り返りを行った。

他教科との
関連

- ・ 国語科にて、持続可能な未来を創るために自分ができることを考え、発表した。